

第4回彩都東部地区検討会 議事録（概要版）

○とき：平成24年6月29日（金）午後1時30分～午後3時00分

○ところ：彩都（国際文化公園都市）建設推進協議会大会議室

○出席者：竹内理事（大阪府）、板田理事（茨木市）、瀬渡部長（（独）都市再生機構）、
松本部長（阪急不動産㈱）、黒岩部長（三井物産㈱）、圓城部長（関電不動産㈱）

事務局：彩都（国際文化公園都市）建設推進協議会

【議事概要】

●事務局より、配布資料について説明し、意見交換を行った。

以下に主なやり取りを記す。

➤1. 立地ニーズ調査について

- ・アンケートで企業ニーズを探ることは今年度の重要な業務であるが、955社に配布し、72社回答で15社が興味あるという結果について、回答率が少なく感じる。（阪急）
- ・ヒアリングに行くことはいいが、もう少し充実させる必要がある。たとえば、東部地区への今後の進出意向について、わからないという回答企業はヒアリングに行かなくていいのかなど。（大阪府）
- ・企業誘致アンケートの中間集計リストをいただき当社でも数社にプッシュしたが、アンケートそのものの存在を知らない企業もあったので、送付後の確認フォローが必要なのではないかと。東部地区開発の認知率を上げる意味でも今の内に少しでも接点を多く求めてアピールしておくことも必要である。（関電不動産）
- ・現時点で仮に30%くらいの回収率があればもっと話を進めていけるが、今この段階でこれ以上アンケートの回収率を上げて中身は変わらないと思う。茨木北ICや周辺道路整備ができてくることが見えないと議論にならない。回収率の低さを認識したうえで、まずは彩都東部地区の認識度を高める方法を考えたほうがいい。アンケートの回収率だけ高めても無意味なことになってしまう。（三井物産）
- ・西部地区も立地までかなりのタイムラグがあった。造成工事にも入っていない時に企業に対して立地しませんかと聞いても答えは返ってこないと思う。今はあの立地を理解いただいたうえで可能性のある事業分野を把握したい。今後、コンセプトを打ち立てて進めていく中で、実際はその時代に応じて軌道修正を図っていくと思うが、今は我々が立てた仮説の方向性が正しかったのか確認したい。（阪急）

➤2. 企業ヒアリング活用資料について

- ・物流という切り口から行けばかなりいいと思うが、実際にどの辺の立地がいいかについては周辺インフラがそろわないとわからない。これだけ詳細のコンセプトや仮説を載せてアンケート出したのに、回答率が7%であったという結果を受け止める必要がある。コンセプトについては柔軟な考え方が必要である。（三井物産）
- ・現状何も決まっていない中で聞かれても企業が答えられないと思う。ただ、インフラ整備に関しても企業のニーズ把握は必要と考える。ニーズを調査しつつ事業手法やゾーニングといったまちづくり検討を並行して行っていくと理解している。作成したコンセプト案をヒアリングで企業に確認してニーズを引き出してほしい。（阪急）

- ・ターゲットは新名神開通の平成 30 年を目指すべき。風呂敷を広げすぎず、物流施設中心に絞るとか。バイオマスに絞るとか、そういう取組みに切り替えたほうが結果も出やすいと考える。(三井物産)
- ・たとえば、エネルギー関連や大規模農園の事業パートナーとなりうる企業の意見も聞いておきたい。(阪急)
- ・バイオマス発電等に調査をするにしても、事前に最低限の条件を調べておく必要がある。用途地域や周辺森林組合の状況等のベーシックな条件をそろえたうえでのアンケートであれば意味があるが、ただ聞いても意味がない。物流も同様で、車両輸送予想とかある程度の基礎を整理してから具体的な企業へのアプローチを行うべき。(三井物産)
- ・先の話なので正直企業に聞くには難しいところもあるが、分野別に絞ってニーズを聞いてみる方がいいと思う。WG メンバーで担当別で調査を行うとかもっと動いていただきたい。(阪急)

➤3. その他

- ・事業協力者へのヒアリングは、予定通り企業ヒアリングの動き等と合わせて行いたい。(UR)
- ・関連公共施設をどこからやっていくのかが気になっている。東部地区を工区に分割した場合、どの工区からどのような手法で段階的な整備を進めていくのか等の具体的な検討が必要。素案までにまとめてもらいたいと思っている。(茨木市)
- ・事業化につなげる中長期のスケジュールを作成願う。(阪急)

●次回検討会 7/25 (水) 15:00~ (※当初予定の 27 日より変更)